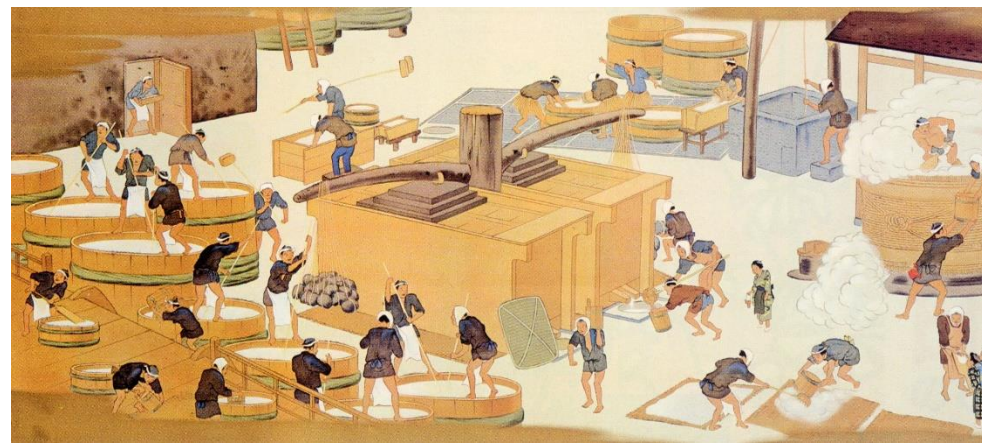


# ヒアリング資料

(出羽桜酒造(株) 仲野代表取締役社長)

- 日本の文化を背負うもの
- 日本を代表する國酒
- 約2000年の歴史がある
- 日本酒史上最高の品質
- 比べ飲みの楽しさ
- 様々なものとの組み合わせ



- 日本酒の輸出数量： H29年度 23,482kl
- 日本酒の輸出金額： H29年度 18,679百万円
- 日本酒は総出荷数量の約3%を輸出
- 輸出製造業者数： H29年度 794社（全製造業者の55%）
- フランスのワインは、国内生産総量の約40%弱を輸出



# 出羽桜の輸出の流れ

年度	動き
平成9	欧州(独・仏・蘭)に輸出開始
平成10	豪州、シンガポールに輸出開始
平成11	ハワイに輸出開始
平成12	香港に輸出開始
平成13	サンフランシスコ(西海岸)に輸出開始
平成14	台湾に輸出開始
平成15	ニューヨーク(西海岸)に輸出開始
平成16	韓国・ドバイに輸出開始
平成17	中国に輸出開始
平成18	全出荷量の5%を達成
平成19	チリに輸出開始
平成20	英国・タイ・ブラジルに輸出、成田空港の免税店で販売開始
平成21	世界最大のワイン展示会「VINEXPO2009」に出展(仏ボルドー)
平成22	インド・各国在外大使館(28カ国)へ輸出開始 英国王室御用達・英国最古のワイン商「BB&R」で日本酒で最初の取扱販売

# 出羽桜の輸出の流れ

年度	動き
平成23	「ダボス会議」に「一路」を提供
平成24	スウェーデン・スペイン・カナダに輸出開始
平成25	ロシアへ輸出開始
平成26	ベトナム・ネパールへ輸出開始
平成27	カンボジアへ輸出開始
平成28	レバノンへ輸出開始
平成29	フィリピンへ輸出開始

## 輸出先

米国、香港、英国、中国、台湾、韓国、オーストラリア、シンガポール、タイ、ベトナム、フランス、スウェーデン、ドイツ、スペイン、ロシア、カナダ、ブラジル、チリ、UAE、インド、ネパール、カンボジア、インドネシア、スイス

現在、約30カ国に輸出

- 地元、国内で評価されない酒は、海外でも難しい
- 日本文化(山形の文化)を代表して行く気持ち
- 蔵元自ら現地に行き、伝える努力
- インポーター、レストランの仕入担当、レストランのサーバー、消費者の教育
- 海外から日本に来ていただき、理解していただく
- 個別来社、泊り込みで仕込み体験(蔵人との交流)
- 味わいはそのままに、銘柄名、特徴などを理解できるように、裏ラベルは英語のラベルを添付
- 海外での販売を通して、日本での販売方法を反省、振り返る機会

- 街のワインショップなどでも地酒が買える状況を広め、家庭でも酒が楽しめるようにする
- レストランでの高価格の日本酒のみの販売に専念し、リーズナブルかつ高品質のアイテムの投入を怠れば、ごく一部のお客様のみが楽しむ酒となる
- 将来的には、日本国内で過去にたどった日本酒衰退の歴史同様に消費量が減少していく危険性がある

・地理的表示(Geographical Indication:GI)制度は、酒類や農産品において、ある特定の産地に特徴的な原料や製法などによって作られた商品だけが、その産地名(地域ブランド)を独占的に名乗ることができる制度。

※海外の地理的表示としてはボルドーワイン、スコッチウイスキーなどが有名。

- ・平成30年 灘五郷(清酒) 指定
- ・平成30年 北海道(ワイン) 指定

酒類の地理的表示の指定状況





